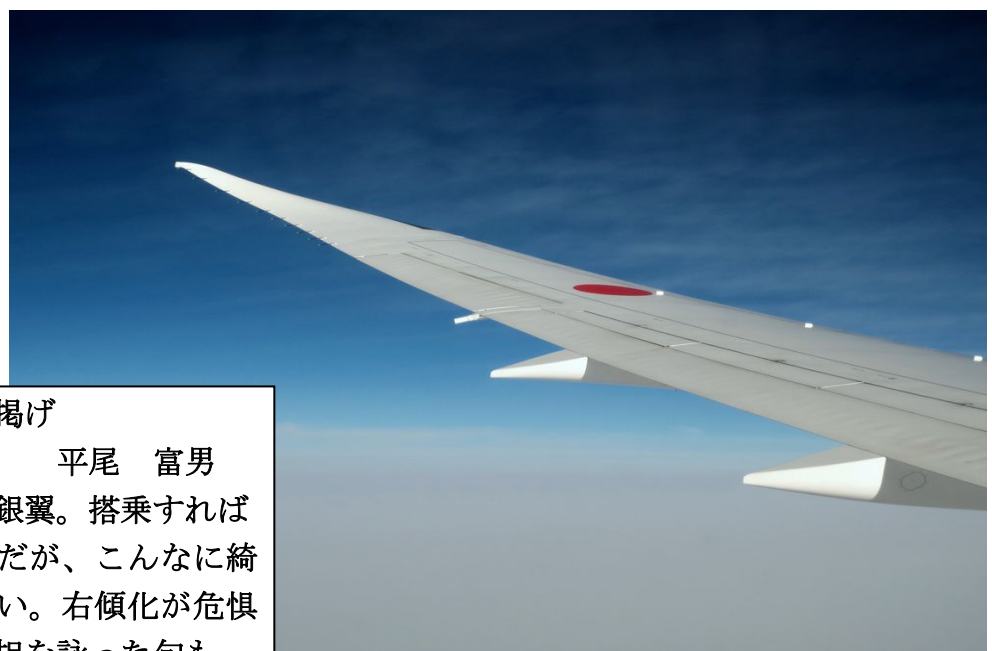


## 第四十九回フオト句会優秀作品(27年3月11日)

### 自由題



予定した食事が消えた  
雪の朝 中村 晃也  
寸評：思いがけない大雪のため  
いつも撒いてあるパン屑が消えて  
終わった。手分けして探している  
雀の一家が哀れである。



左翼でも日の丸掲げ  
舞い上がる 平尾 富男  
寸評：青空に銀翼。搭乗すれば  
誰でも撮る写真だが、こんなに綺  
麗なものも珍しい。右傾化が危惧  
される日本の世相を詠った句も  
秀逸である。



萱の家いざなう日々や

梅香る 安藤 晃二

寸 評：穏やかな風景だが、句の意味（特に中7）が判然としない。句意を類推して

梅の香やまた訪れし萱の家では？



この先は焼酎浸りか

塩まみれ 下山 健夫

寸 評：綺麗な梅の花。句で言いたいことは判るが、省略がキツ過ぎ、もう一工夫欲しいところ。例えば  
「成った実は焼酎浴か塩まみれ」

**リハビリ教室** 画像は前ページの作品よりレベルが高いのに、点が入らなかった作品です。句を少し変えてみてはどうでしょうか？



原 句： 啓蟄や末はデイランか陽水か 大越 浩平  
公園の木陰でギターを弾く男性に寄り添うようにして歌詞を追っている女性。微笑ましい穏やかな風景。「末はデイランか陽水か」の中7下5の措辞も的を得ているのに得点が入らなかったのは使用した季語の責任です。無理に難しい漢字を使わずに「春の日や」とでもサラッと流せばよかったと思います。



原 句： 老いてなお付けときなはれ馬鹿頭 矢澤 正二  
懐かしい浪速千栄子のオロナイン軟膏のポスターである。句にアクセントをつけるつもりで使った下5の「馬鹿頭」の印象が良くないので、故浪速千栄子に敬意を表し「あの世でも家中みんなでおロナイン」ではどうだろうか。  
句作ではあまり気張らないこと、平易な言葉を使うことが肝要である。

## 付け句

このページはどんな写真にも良い句がつけられるように訓練するコーナーです。



今月は安藤さんの出題で、新緑の華厳の滝の写真です。安藤さんによれば横型の画面で滝壺が見えないところが良いのだそうです。

- |                     |        |
|---------------------|--------|
| 1) この水量前立腺に不安なし     | 中村 晃也  |
| 2) 雲間より仙人柄杓をぬっと出し   | 新田 由紀子 |
| 3) 止まらない一途に落ちる恋の道   | 平尾 富男  |
| 4) 水が落ち霧上りゆく不思議さよ   | 池田 隆   |
| 5) 肩こりにこの打たせ湯はきっと効く | 矢澤 正二  |

寸評：

- 1) 老年男性が前立腺肥大症になると尿の出が悪くなる。轟々と落ちる滝をみてその力強い水量を羨ましいと思うのは男性の性である。ただこのような句が1位をとるような勉強会は、その品位が疑われても仕方あるまい。
- 2) 滝と霧と新緑の写真を見てこのような大きな景を詠める作者の才能は非凡である。「柄杓をヌット出し」の措辞はユニークで見学者らしからぬ表現である。
- 3) 話を男女関係に持ち込むのはこの作者の常道で、その才能も非凡である。
- 4) なんでもない現象に不思議さを感じるのは科学者の習性か？
- 5) 滝を打たせ湯に見たてるのは下町のご隠居さんの発想。温泉大好き！